



ハートブレイク



来間タロー

春風に吹かれて

二人出逢うシーンが用意されてるみたいに
桜のトンネルで君とすれちがい
ピンク色の花びらが道を染める頃 君と知り合い 恋をした

お互い大きな夢を持っていて 夢を語るのも 聞くのも楽しかった
目指す道は違っても いつも応援して 心で支え合い
いつまでも君と二人でいられると信じてた

君に恋をして 三度目の夏 僕の夢は終わり
悲しむ僕を 君はただ見つめてた
君の笑顔が 僕の心を晴れさせたんだ

桜の蕾が出る頃 夢が叶った君から
都会へ行くと聞かされて 僕は戸惑いを隠せなかった
期待に胸を弾ませて 眩しい笑顔で 夢のStep UPを話してくれたね

僕は張り裂けそうな胸を抑えて
ありったけの勇気を振り絞り 君に送ったエール
君は涙を流して 僕にキスをした

入学の日に君と出逢い 卒業の日が別れの日と知ってれば
僕は君と恋をしなかったかもしれない
別れの辛さを知ったから

瞳の魔法

幾多の人が行き交う駅の階段で
視線を感じて振り向けば 大きな瞳の君がいた
何か驚いたような顔をしていたね

誰かに似てるって思ったのかな
それとも僕の顔が変な顔だったとか
ひょっとして 僕が君のタイプだったりして
結局 君が僕を見つめる理由は判らない

僕は君と始めて会ったと思う
以前会った事が有るなら その大きな瞳は覚えてる

君が笑うと どんな笑顔になるだろう
怒った顔は怖いかな 泣いた顔は僕まで悲しませるのかな
気が付けば 僕は君の瞳に恋してた

君とは偶然すれちがっただけ 二度と会えないのに
たった3秒程 視線が合っただけなのに
君は僕に 恋の魔法をかけて行ったんだ

いい人

サークル仲間の君は いつもツインテールが似合ってる
僕は君に 毎朝おはようって言うのが精一杯で
気の利いたトークなんて出来やしない

君に僕の気持ちがバレるのが怖くて
君には他の女の子と同じ態度をとっていた

そんな時 君が僕の事をいい人だと思ってるって話を聞いたんだ
一週間後のバーベキューパーティーで君と二人きりの大チャンス
思い切って告白したら
いい人過ぎるからって 振られたよ

後で君の友達が そっと教えてくれたアドバイス
好きなら 好きな子だけ見てないとダメだよ

次の恋では もう少し上手に告白できるかな

DKB

今までモテた事が無かったけど
急に二人の女の子がアプローチしてきたよ

からかわれてるのかな 何故急に
本当に僕に気があるのかな 何故二人同じタイミング
そんな余計な事ばかり考えてたら
二人共 僕に愛想をつかせて離れていった

恋とは一部始終が謎なんだ
途方に暮れる僕に いつしかDKBってアダ名がついた
鈍感ボーイ(DKB)

次こそ上手に恋ができるかな

友情or愛情

6年ぶりかな 君と同じクラスになるなんて
小学生だった時は 君の方が背が高かったけど
今じゃ僕の方が少し高いね

夏になり プールの後の湿った髪で君は
彼女いるのって聞いてきた
いないって答えると 君は優しく微笑んだ

君の友達が僕に気があるって言うけど
好きな子がいるからって 友達の名を聞かなかったよ
残念そうに横を向く顔は 僕の胸を締めつけたんだ

止せば良いのについ言葉が出たのさ
俺 お前がずっと好きなんだ

君は凄く驚いて 何も言わずに走って行った
何度失恋すれば 上手く恋愛できるのかな
青い空に尋ねても 返事は無かった

横恋慕

恋人達が待合せによく使うカフェテリア
夕暮れに 今日も君はあいつを待っている
これからの楽しい時間を考えているんだね

君が始めて店に来た時から 恋した自分に気が付いたよ
でも君は あいつの彼女 手が出せない存在さ
僕があいつと競っても 勝てるものは何も無い
君は僕の存在すら知らないだろうね

君の向かいの空いた席 そこに座れるのはあいつだけ
僕はこの店の奥で食器洗いをしながら
君の横顔を見つめることしかできない

実は今日で この店のバイトを辞めるんだ
幸せそうに話す君とあいつを見るのが辛くなったから

ときめく心

観たい映画を観に行くとシアターは恋人達で溢れてる
一人の客は浮いてたけど空いた席が一つあればいい

後ろの方の左側 ポツンと空いた席
ココ空いてますかって尋ねると
どうぞって言って君は微笑んだ

始めて会った名前も知らない君が隣に座ってる
なんだか君とデートしてるみたいにドキドキして
君のせいで映画に集中できないよ

映画が終わり君が去った後僕は席に残って考えたけど
どうしても映画の物語が思い出せないんだ
覚えてるのは君の笑顔だけ

僕は君の笑顔を忘れる為に
もう一度 同じ映画を観たんだ

カモフラージュ

君といると楽しくて 心もウキウキするよ
周りのみんなも気付いてる 二人は相性ピッタリ
きっと僕と君は付き合ってるって噂

悪くは無いけど 本当にそうなるといいな
グループで何度か遊びに行ったけど
二人で会ったことは無いんだ

誘ってみるか 友達のままにしておくか
揺れる僕の恋心

そんな時 君が僕に差し出した
結婚式二次会の招待状
君から手渡しされるなんて

彼氏がないと言ってたのに
君が僕と仲良くしてたのは
君の彼氏を隠す為のカモフラージュ

恋は残酷だね

紙飛行機

土曜日の夕暮れ時 河川敷を走る僕を
突然 犬が追いかけて来た
君は大声で犬を呼び止めて
僕は なんとか噛まれずにすんだよ

犬を抱きしめて僕に謝る君は
夕陽が頬を染め 僕の胸を締めつけたんだ

それから毎週土曜日の同じ時間に
同じ場所で君を見かけるようになった
言葉も無く お互い ただ会釈をするだけだけど
君の犬も僕を獲物と思わなくなったようだ

君と出逢って一月が経ち 僕は君に恋した事に気付いたよ
君が見てると 嬉しくて 凄く速く走れるんだ
それにガラにもなくLIVEチケットを二枚買っちゃった

次の土曜日 同じ時間に同じ場所で君とすれ違う
いつもと違うのは カッコ良い犬を連れた
イケメン男子が側にいることだ

君はとっても楽しそう
犬嫌いの僕には 犬を連れて歩く事も難しい
翌週からは走る時間とコースを変えないとね

余ったチケット1枚は 紙飛行機になって
川に落ちて流れて行った

Hello again

今日は 高校同窓会
三年間付き合っ 卒業式の日 別れた君と
10年ぶりに再会できるんだ

10年前の約束は 今でもハッキリ覚えてる
お互い嫌いになって別れるんじゃないから
いつか会ったら 挨拶しようって

なんて挨拶しようかな どんな話をしようかな
君はどんな風になってるかな
結婚したのかな それより今日来てるだろうか
そう思うと 胸は高鳴り 足が震えてきたよ

会場で君を探したけど 見つからなかった
時間が過ぎて閉会間際に 誰かが僕の背中を指で突ついている
振り返れば君がいた その笑顔は当時のままだね
すごくキレイになって 仕草も大人っぽい

僅か5分の会話だったけど楽しかったよ
再会を祝って乾杯した時 グラス持つ君の左手には
プラチナリングがよく似合ってた

帰り際 今まで隠しておいた言葉が思わず出たんだ
さよなら